

芳ヶ平湿地群

(よしがだいらしちぐん)

位置：北緯36度39分、東経138度33分／標高：1,200～2,160m／面積：887ha／湿地のタイプ：中間湿原、火口湖、池沼、河川／保護の制度：国立公園特別地域／所在地：群馬県中之条町、草津町／登録：2015年5月／国際登録基準：1、4

湿地のタイプ：中間湿原、火口湖、池沼、河川



芳ヶ平湿原を見下ろす



大平湿原



チャツボミゴケの群落



モリアオガエルの産卵

湿地の概要：

芳ヶ平湿地群は、日本の中央部に位置する群馬県の北西部、草津白根山(2,160m)山頂から北東斜面の標高1,200m付近まで、中間湿原、火口湖、池沼、河川が階段状につづく湿地群である。草津白根山の火山活動により形成された難透水性土壌やくぼ地に湿原や池沼が発達し、火山特有の強酸性の水質と火山ガスが特殊な環境をつくった、2,000m級の山岳が連なる上信越高原国立公園の中にある美しい景観の湿地である。

芳ヶ平湿原と大平湿原の中間湿原：

芳ヶ平湿原(1,832m)と大平湿原(1,600m)は、温帯針葉樹林帯の代表的な中間湿原で、酸性の水質と高い地温・水温、豊富な伏流水によって、ヌマガヤ、ツルコケモモ、ヤチスゲ、シラビソ、ササが独特の植生を見せ、芳ヶ平湿原の池塘とワタスゲ群落、大平湿原のミズバショウは湿原景観を際立たせている。

二つの湿原の下部に広がる樹林帯には、森の中に隠れるように、フトヒルムシロやヒメミズニラなどの抽水植物が優占する天然池の平兵衛池、大池、水池が点在している。

湯釜と穴地獄：

湯釜(2,050m)は強酸性(pH1～1.2)のエメラルドグリーンの湖面が特徴的な

草津白根山直下の火口湖である。

穴地獄(1,300m)は、鉄分や硫黄分を豊富に含む強酸性の水(pH2.6～2.8)が流れる元山川の源流で、好酸性のコケの代表種チャツボミゴケが、緑のじゅうたんを敷きつめたようにびっしりと生えており、チャツボミゴケ公園として親しまれている。

モリアオガエルなどの希少種の宝庫：

これらの芳ヶ平湿地群にはホソカワモズク、ヒメミズニラ、ミサゴ、クロサンショウウオなどの絶滅危惧種を含む植物442種、動物20種、野鳥62種、トンボ14種が確認されている。

なかでも日本固有種のモリアオガエルは、ふつうは水面に張り出した木の枝に白い泡状の卵を産むが、酸性度が高く天敵の魚がいないここでは、水辺の草など地上で産卵する。火山による地熱と高い水温の伏流水、当該地の形成過程等の影響で他の地域と異なる独自の適応進化を遂げたと推測され、日本最高標高地(2,150m)の繁殖地となっている。

山越えの国道から見下ろす景観：

芳ヶ平湿地群は、国道292号線の国道最高地点(2,172m)から遠望景観を楽しむことができる。国道最高地点からは芳ヶ平湿原が眼下に広がり、草津白根山の荒涼とした山体とのコントラストが美しい。

湿地へのアクセスは、群馬県、長野県の県境に位置する渋峠から徒歩で1時間程下れば芳ヶ平湿原があり、多くの人が観光に自然観察に訪れ、楽しんでいる。芳ヶ平湿原から大平湿原、平兵衛池、大池、水池を経てチャツボミゴケ公園まで登山道が整備されている。

●関係自治体

中之条町役場六合支所

Tel: 0279-95-3111

草津町役場

Tel: 0279-88-0001

